

日本キャリアデザイン学会 2011 年度総会

配 付 資 料

日 時 2011 年 10 月 1 日(土) 16:30~17:25 (終了予定)

会 場 日本大学法学部 10 号館 1011 講堂

司会 金井篤子 理事

— 次 第 —

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 事業報告
 - ・ 2010 年度事業報告 . . . (資料 1)
 - ・ 活動日誌 . . . (資料 2)
4. 議決事項
 - 第 1 号議案 2010 年度決算承認の件 . . . (資料 3)
 - 第 2 号議案 学会規約等の改定の件 . . . (資料 4)
 - 第 3 号議案 2011 年度事業計画承認の件 . . . (資料 5)
 - 第 4 号議案 2011 年度予算案の件 . . . (資料 6)
5. 2012 年度研究大会・総会の件
6. 閉会の辞

以上

※引き続き、「キャリア政策研究・国際交流委員会」から特別報告(17:25~17:45 予定)がございます。

≪資料1≫ 2010年度 事業報告

1. 会員数の推移

正会員は昨年より58名増加し会員数は、1,145名(昨年比105.8%)となった。

会員状況

※単位:名 (2011年9月30日現在)

会員種別	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年度	前年比
正会員	640	695	714	788	834	46
正会員(院生)	81	101	99	100	112	12
学生会員	23	25	25	25	25	0
賛助会員(個人)	112	126	131	136	133	-3
賛助会員(団体)	44	46	42	38	41	3
合計(人)	900	993	1,011	1,087	1,145	58

2. 当学会の問題意識と基本的な考え方

従来キャリアに関する問題は、個人の問題として捉えられていた。しかし、現下の経済の混乱と不確実、雇用の危機と不安定、教育の遅滞と不適應、いずれをとっても、社会構造の問題として捉えることが必要になっている。そのため、学会としても現行のキャリア政策とその結果について研究・検証を推進し、さらに学会として、キャリア政策に関して積極的な発信を行っていくことを、当期の基本的な考え方とした。

今年3月11日に発生した東日本大震災によって、キャリアの問題は、経済的にも、雇用面でも、教育面でも、より社会的・具体的な問題となって現れた。当学会としても、この震災にフォーカスをあて、次期に向けて具体的な行動に着手するための現状把握に努めるなど、準備をおこなう年度となった。

3. 研究組織委員会活動

当期方針の通り、各委員長を中心として委員会活動を推進した。その活動は以下のとおりである。

(1) 研究会企画委員会

久保田慶一委員長のもと、隔月1回の研究会開催を基本方針としつつ、4回の研究会を開催した。研究会も「著者と語るシリーズ」「経営者と語るシリーズ」などのテーマによりシリーズ化した。なお、キャリアに関っている方による勉強会の開催などによる、会員交流の活性化は具体化まではいかなかった。

(2) 研究誌編集委員会

脇坂明委員長のもと、研究誌『キャリアデザイン研究 Vol.7』を9月16日に発行した。投稿論文等の数は23件となり、審査の結果14件の論文等を掲載するにいたった。なお、研究誌(バックナンバー含む)の電子図書館化は、依然模索段階である。

(3) 広報委員会

堀内泰利委員長より示された方針により、従来どおり月1回のニュースレターの発

行、2ヶ月に1回程度のメールマガジンの発行を行った。

また、当初予定していたホームページを使った研究会の要旨、事例や実践報告の募集と掲載、会員自己紹介のためのコーナーの作成による会員相互の交流促進については、個人情報保護との関連から慎重に検討を続けている。あわせて、会員の拡大・組織化を図る活動についても、検討を継続している。

(4) キャリア政策研究・国際交流委員会

3月11日に発生した東日本大震災によって生じた、キャリア支援に関する諸課題を研究するために、問題意識のすり合わせや学会としてなすべきことを議論した。その上で、会員を中心にアンケートを実施・分析し、現状の課題を具体化すると共に、委員会の研究テーマ・活動方針を検討した。また、マスコミが捉えている被災地の雇用に関する動向や諸問題、震災における行政の支援策、特に厚生労働省のキャリア支援策を調査した。

(5) キャリアデザイン（研究）ハンドブック（仮称）編集委員会

川崎友嗣委員長のもと、ハンドブックの編集コンセプトおよび委員会の組織化について検討に着手した。

4. 地域活動

関西支部は中村恵副会長を、その他の地域は鹿嶋研之助副会長を担当理事とし、地域活動を推進した。

(1) 関西支部

中村恵副会長・支部長のもと、前年度と同様、年1回の関西支部大会、年3回の関西支部研究会を開催した。

(2) 中京支部

金井篤子支部長のもと、12月4日に中京支部設立記念講演会を名古屋大学にて開催した。また、中京支部規約を制定した。

(3) その他

3月5日に北陸・新潟地区交流会を富山大学にて開催した。また、9月6日に中四国研究会を広島国際大学にて開催した。

5. その他の活動

(1) 会員サービスの向上

東日本大震災の緊急アンケートにあわせて、会員が当学会に対して望んでいる諸活動についてアンケートを実施し、次期の活動を検討する際の参考とした。

(2) 他学会等との連携

中四国研究会においては、キャリアに関する研究活動を行っている他学会およびメディアと連携して、研究会を開催した。

6. 決算は、ほぼ予算どおりで処理ができた。

《資料2》 活動日誌

行事等	日付	主な内容	場所
メールマガジン	平成22年11月1日	キャリアデザインマガジン 第101号発行	
常務理事会	平成22年11月11日	第1回常務理事会 研究組織委員会の構成、研究組織委員会の活動、 第8回研究大会に向けて、第3回奨励金の審査 について、その他	法政大学
ニュースレター	平成22年11月15日	キャリアデザイン・ニュースレター 第74号	
関西支部	平成22年11月23日	関西支部 第1回研究大会 「初中等教育文化の過剰適応とキャリア教育～ あるプロジェクトワークを通して見えてきたもの～」 学校法人エール学園 梶原綾乃氏、「サリバンによる 人間精神発達過程の理論研究～その特徴において 応用が考えうる、半数が不登校経験を持つ多 部制単位制定時制高校での生徒対応に向けて～」 兵庫県立西宮香風高校 中村忠生氏、「女性の キャリア中期におけるトランジションに関する 探索的研究」京都光華女子大学短期大学部 稲垣久美子氏	関西大学
研究会企画委員会	平成22年11月30日	第1回研究会企画委員会 2010年度研究会、第8回大会、専門委員会、 2010年度事業計画、その他	法政大学
中京支部	平成22年12月4日	中京支部設立記念講演会 「ワークライフバランスとキャリアデザイン」 当学会理事・名古屋大学 金井篤子氏、「学会報告」 当学会副会長・神戸学院大学 中村恵氏、「人を 育てる」株式会社樹研工業社長 松浦元男氏	名古屋大学
関西支部	平成22年12月11日	関西支部 第2回研究会 「京都芸舞妓のキャリア形成」 京都女子大学 西尾久美子氏	同志社大学
ニュースレター	平成22年12月15日	キャリアデザイン・ニュースレター 第75号	
研究会企画委員会	平成22年12月22日	研究会企画委員会 第1回専門委員会 第8回研究大会について、その他	
学会タイアップ企画	平成22年12月25日	『私学経営431号(1月号)』※ 「キャリア・ルネサンスに貢献する大学の役割」 当学会会長・法政大学 川喜多喬氏	
広報委員会	平成23年1月6日	第1回広報委員会 今年度以降の体制と企画について、その他	
ニュースレター	平成23年1月14日	キャリアデザイン・ニュースレター 第76号	
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成23年1月19日	第1回キャリア政策研究・国際交流委員会 活動方針について、その他	法政大学
研究会企画委員会	平成23年1月25日	第2回研究会企画委員会 第8回研究大会テーマ及びプログラム内容について、 その他	法政大学
学会タイアップ企画	平成23年1月25日	『私学経営432号(2月号)』 「キャリア形成に必要な力とは」当学会機関誌編 集委員会委員・関西支部委員・追手門学院大学 三川俊樹氏	
研究誌編集委員会	平成23年1月28日	第1回研究誌編集委員会 『キャリアデザイン研究 Vol.7』について、その他	法政大学
研究会	平成23年2月5日	東京地区第1回研究会 「演劇に生きる一演劇人キャリアの現実を見る」 演出家・桐朋学園芸術短期大学 越光照文氏	秋葉原ビジョンセンター

ニュースレター	平成 23 年 2 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 77 号	
学会タイアップ企画	平成 22 年 2 月 25 日	『私学経営 433 号 (3 月号)』 「大学設置基準改正の狙いと展開『社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制』について」文部科学省 榎本剛氏	
常務理事会	平成 23 年 2 月 26 日	第 2 回常務理事会・委員長合同会議 第 8 回研究大会について、委員会報告、入会審査基準について、その他	法政大学
地域活動	平成 23 年 3 月 5 日	北陸・新潟地区交流会 「キャリアデザイン支援の現状と課題」当学会副会長・千葉商科大学 鹿嶋研之助氏、「富大流人生支援プログラム」富山大学 荒井明氏、「CC (キャリアセンター) サポーターの取組み」新潟大学 西條秀俊氏、「キャリア形成のこれまでと新たな取組み-現代GPから就業力GPへ」、富山県立大学 奥田實氏	富山大学
関西支部	平成 23 年 3 月 5 日	関西支部第 3 回研究会 「外国人留学生の就職支援のあり方を考える～アジア人財資金構想事業の現場から～」 関西生産性本部 西岡亜矢子氏、石川雅嗣氏、道盛陽子氏	大阪大学
研究誌編集委員会	平成 23 年 3 月 11 日	第 2 回研究誌編集委員会 研究誌執筆要項変更に伴う内容確認と役割分担	法政大学
ニュースレター	平成 23 年 3 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 78 号	
学会タイアップ企画	平成 23 年 4 月 1 日	『私学経営 434 号 (4 月号)』 「経済産業省の人材育成政策 社会人基礎力のねらいと展開」経済産業省 林揚哲氏	
ニュースレター	平成 23 年 4 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 79 号	
研究会企画委員会	平成 23 年 4 月 20 日	研究会企画委員会 第 2 回専門委員会 第 8 回研究大会について、その他	
研究会	平成 23 年 4 月 23 日	東京地区第 2 回研究会 著者と語るシリーズ「キャリア・マネジメントー人材マネジメントの視点からー」日本大学 谷田部光一氏	法政大学
学会タイアップ企画	平成 23 年 5 月 1 日	『私学経営 435 号 (5 月号)』 「厚生労働省における若者のキャリア形成支援・就業支援施策について」厚生労働省 伊藤政史氏	
研究会	平成 23 年 5 月 7 日	東京地区第 3 回研究会 経営者と語るシリーズ「共生の精神で、若手の力で、会社を元気に」ホッピービバレッジ株式会社 石渡美奈氏	学士会館
常務理事会	平成 23 年 5 月 7 日	第 3 回常務理事・委員長合同会議 第 8 回研究大会について、委員会報告、その他	学士会館
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 5 月 7 日	第 2 回キャリア政策研究・国際交流委員会 東日本大震災後のキャリアデザインについて、その他	学士会館
ニュースレター	平成 23 年 5 月 16 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 80 号	
メールマガジン	平成 23 年 5 月 16 日	キャリアデザインマガジン 第 102 号発行	
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 5 月 16 日 ～6 月 30 日	キャリア政策研究・国際交流委員会 会員対象「東日本大震災後のキャリア支援に関する緊急アンケート」実施	

キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 5 月 31 日	キャリア政策研究・国際交流委員会 訪問調査(厚生労働省) 東日本大震災後の支援について、その他	
研究会企画委員会	平成 23 年 6 月 1 日	第 3 回研究会企画委員会 第 8 回研究大会について、その他	法政大学
ニュースレター	平成 23 年 6 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 81 号	
常務理事会	平成 23 年 6 月 19 日	第 4 回常務理事会・委員長・研究会企画委員会合同会議 第 8 回研究大会について、委員会報告について、 後援名義承認申請について、その他	法政大学
学会タイアップ企画	平成 23 年 7 月 1 日	『私学経営 437 号 (7 月号)』 「初等中等教育におけるキャリア教育の現状と課題」当学会副会長・千葉商科大学 鹿嶋研之助氏	
ニュースレター	平成 23 年 7 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 82 号	
研究会	平成 23 年 7 月 16 日	東京地区 第 4 回研究会 経営者と語るシリーズ『オンライン英会話ビジネス』に取り組む私のキャリアデザイン」株式会社レアジョブ 加藤智久氏	法政大学
研究会企画委員会	平成 23 年 7 月 16 日	第 4 回研究会企画委員会 第 8 回研究大会について、その他	法政大学
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 7 月 16 日	第 3 回キャリア政策研究・国際交流委員会 アンケート実施報告、被災地の現状報告、今後の活動計画、その他	法政大学
メールマガジン	平成 23 年 7 月 25 日	キャリアデザインマガジン 第 103 号発行	
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 7 月 25 日 ～8 月 8 日	キャリア政策研究・国際交流委員会 会員・一般対象「東日本大震災後のキャリア支援に関する緊急アンケート」実施	
キャリア政策研究・国際交流委員会	平成 23 年 8 月 6 日	第 4 回キャリア政策研究・国際交流委員会 アンケート結果報告(中間)、今後の活動計画、その他	法政大学
ニュースレター	平成 23 年 8 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 83 号	
メールマガジン	平成 23 年 8 月 28 日	キャリアデザインマガジン 第 104 号発行	
学会タイアップ企画	平成 23 年 9 月 1 日	『私学経営 439 号 (9 月号)』 「学び」へと開かれたキャリア支援・キャリア教育を」当学会理事・法政大学 上西充子氏	
地域活動	平成 23 年 9 月 6 日	中四国研究会 テーマ:就業力育成の観点から正課キャリア教育カリキュラムを考える～地場企業・教員・職員の三者の立場から～ 基調講演:学会副会長 千葉商科大学 鹿嶋研之助氏、発表者:株式会社中国新聞社 金谷明彦氏、株式会社フレスタ 小玉一樹氏、広島経済大学 高本登彦氏、広島国際大学 常松玲子氏、広島修道大学 高橋保人氏	広島国際大学 広島キャンパス
ニュースレター	平成 23 年 9 月 15 日	キャリアデザイン・ニュースレター 第 84 号	
常務理事会	平成 23 年 9 月 25 日	第 5 回常務理事会 第 8 回研究大会について、2010 年度決算・事業報告について、2011 年度予算・事業計画について、規約改定について、その他	法政大学

※ 『私学経営』とは、公益社団法人私学経営研究会の会誌で、当学会とのタイアップ企画として「キャリア・ルネサンス - 逆境からの挑戦 -」の連載を開始した。

◀資料3▶ 2010年度決算承認の件

※9月30日が決算日ですが、下記は2011年9月16日現在の貸借対照表となっております。
 (確定したものはホームページに掲載いたします)

日本キャリアデザイン学会2010年度決算書				
貸借対照表				
資産・負債別/科目				備考
資産 の 部	流動 資産	普通本口(三菱東京UFJ)	4,816,919	
		普通大会口(三菱東京UFJ)	1,059,039	
		普通関西大会口	25,173	
		郵便貯金	78,917	
		前渡金	132,825	
		前払費用	242,550	
		流動資産合計	6,355,423	
資 産 合 計			6,355,423	
負債 の 部	流動 負債	未払金	115,500	
		前受金	1,052,000	
		預かり金	28,886	
		流動負債合計	1,196,386	
負 債 合 計			1,196,386	
正 味 財 産 の 部			5,159,037	
(うち当期収支差額)			1,234,064	
負債及正味財産合計			6,355,423	

日本キャリアデザイン学会2010年度収支計算書

2010年10月1日～2011年9月30日

科目別	決算額	予算額	差額
I. 収入の部			
会費収入	8,704,300	9,000,000	-295,700
大会会費収入	2,466,000	4,000,000	-1,534,000
研究会参加費収入	198,000	400,000	-202,000
研究誌等販売収入	128,000	170,000	-42,000
関西支部収入	153,000	0	153,000
中京支部収入	151,000	0	151,000
その他事業収入	76,000	20,000	56,000
受取利息	400	1,000	-600
当期収入計 (A)	11,876,700	13,591,000	-1,714,300
前期繰越資金	3,924,973	3,924,973	0
収入合計 (B)	15,801,673	17,515,973	-1,714,300

※大会関連収入と支出は、昨年度(神戸学院大学)と本年度(日本大学)の2年分を計上しましたが、本年度の大会開催日程が10月となったため、収入、支出ともに次年度へ繰り越しました。

※なお、すでに入金があった会費収入は「前受金」、大会関係支出で今期中に支払があったものは「前渡金」で計上しています。(前ページ参照)

※広告宣伝費は、学会ホームページ維持管理費用です。

※研究助成費は助成辞退があったため、支出がなくなりました。

科目別	決算額	予算額	差額
II. 支出の部			
大会関連支出	2,685,903	5,000,000	-2,314,097
雑給	352,126		
旅費交通費	276,950		
諸謝金	188,887		
会合・懇親会費	483,130		
印刷代	740,985		
会場費	150,850		
その他	492,975		
関西支部支出	285,988	500,000	-214,012
雑給	6,090		
旅費交通費	0		
諸謝金	99,999		
会合・懇親会費	159,844		
印刷代	0		
会場費	18,900		
その他	1,155		
中京支部支出	226,187	500,000	-273,813
雑給	0		
旅費交通費	28,220		
諸謝金	77,777		
会合・懇親会費	102,310		
印刷代	0		
会場費	17,220		
その他	660		
業務委託費	2,340,000	2,340,000	0
広告宣伝費	690,900	420,000	270,900
旅費交通費	468,890	450,000	18,890
通信費・運賃	740,972	700,000	40,972
諸謝金	252,220	350,000	-97,780
会合費	309,437	250,000	59,437
消耗品費	179,550	250,000	-70,450
印刷費	1,748,250	2,200,000	-451,750
支払手数料	281,662	200,000	81,662
諸会費	195,000	90,000	105,000
研究助成費	0	300,000	-300,000
雑費(雑給含む)	237,677	300,000	-62,323
当期支出計 (C)	10,642,636	13,850,000	-3,207,364
当期収支差額 (A)-(C)	1,234,064	-259,000	1,493,064
次期繰越資金 (B)-(C)	5,159,037	3,665,973	1,493,064

監 査 報 告 書

日本キャリアデザイン学会

会 長 川喜多 喬 殿

当学会の2010年10月1日から2011年9月30日までの収支報告書及び2010年9月16日現在の貸借対照表は、法令に従い当学会の状況を正しく示しているものと認めます。

なお、本年度は総会期日が10月1日であるため、決算確定後に改めて監査の上、ご報告いたします。

2011年9月30日

監事・公認会計士 平野 毅

《資料 4》 学会規約等の改定の件

「改定趣旨」

研究誌への投稿者と編集委員会のやり取りのなかで、規定が不備であることが判明したため、執筆要領を作成した。それに伴い、文言等の整合性を図ると共に、委員会の名称や位置づけを明確にするために、学会規約および運用細則を改定したい。

日本キャリアデザイン学会規約

改定後	改定前
<p>(会員の権利と義務) 第 5 条 会員は研究会、研修会、講演会への参加、会の発行する研究誌への投稿、会報、ニューズレター等、調査報告書、資料その他の文書の配布、その他会が定める各種サービスを受ける権利を有する。但し、事業によっては実費を課することがある。</p> <p>(役員の職務) 第 1 2 条 7 研究組織委員は、研究会・研修会・講演会の組織、研究誌など紙誌・情報の編集、大会その他の事業の運営、その他の調査研究活動の組織に当たる。</p>	<p>(会員の権利と義務) 第 5 条 会員は研究会、研修会、講演会への参加、会の発行する研究誌、会報、ニューズレター等、調査報告書、資料その他の文書の配布、機関誌・紙への論文提出の権利、その他会が定める各種サービスを受ける権利を有する。但し、事業によっては実費を課することがある。</p> <p>(役員の職務) 第 1 2 条 7 研究組織委員は、研究会・研修会・講演会の組織、学会紙・誌など紙誌・情報の編集、大会その他の事業の運営、その他の調査研究活動の組織に当たる。</p>

日本キャリアデザイン学会研究誌等に関する運用細則

改定後	改定前
<p>※標題 日本キャリアデザイン学会 研究誌に関する運用細則</p> <p>(目的) 第 1 条 この運用細則は、日本キャリアデザイン学会(以下「本会」という。)に規約に基づき、研究誌についての必要な細則について定める。</p> <p>(研究誌等の範囲) 第 2 条 この運用細則で言う、研究誌は、学術研究論文を主とする研究誌の他、随時発行する活動報告誌、広報誌(活字媒体にとどまらない)を含む。単に研究誌と言う場合は前者を指す。</p> <p>(名称) 第 3 条 日本キャリアデザイン学会の発行する研究誌の名称は『キャリアデザイン研究』とする。その他の発行物の名称は理事会において定める。</p>	<p>※標題 日本キャリアデザイン学会 研究誌等に関する運用細則</p> <p>(目的) 第 1 条 この運用細則は、日本キャリアデザイン学会(以下「本会」という。)に会則に基づき、研究誌等についての必要な細則について定める。</p> <p>(研究誌等の範囲) 第 2 条 この運用細則で言う、研究誌等は、学術研究論文を主とする研究誌の他、随時発行する活動報告誌、広報誌(活字媒体にとどまらない)を含む。単に研究誌と言う場合は前者を指す。</p> <p>(名称) 第 3 条 日本キャリアデザイン学会の発行する研究誌の名称は『キャリアデザイン』とする。その他の発行物の名称は理事会において定める。</p>

改定後	改定前
<p>(発行) 第4条 研究誌は、原則として年2回発行する。 2 理事会において必要と認めた場合は、随時、研究誌の臨時号を発行することができる。</p> <p>(内容) 第5条 研究誌に掲載される論文等の種類は、原則として次のとおりとする。 (7) その他、研究誌としてふさわしいもの (提言、随筆、学会の報告など)</p> <p>※2の削除</p> <p>(審査) 第7条 投稿原稿については、<u>研究誌編集委員会</u>による審査を行う。また、必要に応じて特別の審査委員を学会員あるいはそれ以外の有識者に委嘱できる。</p> <p>2 <u>審査の公正を期すため、投稿者の氏名を伏せた上で複数の審査者が審査にあたり、その結果に基づいて研究誌編集委員会が採否を決定する。</u></p> <p>3 <u>研究誌編集委員会</u>は、執筆者に書き直し、修正など必要な処置を求めることができる。また掲載の種別を変更することができる。</p> <p>4 会員は<u>研究誌編集委員会</u>の決定に異議申し立てはできない。</p> <p>5 投稿・依頼原稿に関わる盗作その他著作権に関わる係争や、名誉毀損その他、論文の内容にかかわって生じる係争への対応は投稿者の責任とし、当会は一切の責任を負わない。</p> <p>6 掲載された原稿などの当会における審査その他のために行う必要最低限の複製、また当会が発行する別媒体への再掲載、当会が審査をして適切と思われる第三者からの複製申し込みに関しての当会の決定に対して、著作者は異議申し立てができない。</p>	<p>(発行) 第4条 研究誌は、原則として年2回発行する。 2 理事会において必要と認めた場合は、随時、研究誌の臨時号<u>及び、研究誌以外の紙誌</u>を発行することができる。</p> <p>(内容) 第5条 研究誌に掲載される論文等の種類は、原則として次のとおりとする。 (7) その他、研究誌としてふさわしいもの (提言、随筆、<u>他</u>学会の報告など)</p> <p>2 <u>その他の紙誌の掲載内容は、研究組織委員会において定める。</u></p> <p>(審査) 第7条 投稿原稿については、<u>研究組織委員会</u>による審査を行う。また、必要に応じて特別の審査委員を学会員あるいはそれ以外の有識者に委嘱できる。</p> <p>2 <u>研究組織委員会</u>は、執筆者に書き直し、修正など必要な処置を求めることができる。また掲載の種別を変更することができる。</p> <p>3 会員は<u>研究組織委員会</u>の決定に異議申し立てはできない。</p> <p>4 投稿・依頼原稿に関わる盗作その他著作権に関わる係争や、名誉毀損その他、論文の内容にかかわって生じる係争への対応は投稿者の責任とし、当会は一切の責任を負わない。</p> <p>5 掲載された原稿などの当会における審査その他のために行う必要最低限の複製、また当会が発行する別媒体への再掲載、当会が審査をして適切と思われる第三者からの複製申し込みに関しての当会の決定に対して、著作者は異議申し立てができない。</p>

改定後	改定前
<p>(依頼原稿・特集企画)</p> <p>第8条 学会の目的に照らし、<u>研究誌編集委員会</u>の発議により、必要に応じ原稿執筆を適切な者に依頼することができる。また、<u>研究誌編集委員会</u>は特集を企画することがある。</p> <p>(原稿の<u>執筆</u>)</p> <p>第9条</p> <p>2 <u>前項の論文等の執筆にあたっては、別途定める執筆要領に従うものとする。これを満たしていないものは受理しない。</u></p> <p>(細則の改定)</p> <p>第12条 <u>細則の改定は、研究誌編集委員会との協議のうえ常務理事会で発議し、理事会で決定する。</u></p>	<p>(依頼原稿・特集企画)</p> <p>第8条 学会の目的に照らし、<u>研究組織委員会</u>の発議により、必要に応じ原稿執筆を適切な者に依頼することができる。また、<u>研究組織委員会</u>は特集を企画することがある。</p> <p>(原稿の<u>枚数</u>)</p> <p>第9条</p> <p>2 <u>その他の原稿は、研究組織委員会において目的に照らして適切に定める。</u></p>

≪資料 5≫ 2011 年度事業計画承認の件

1. 当学会の問題意識と基本的な考え方

(1) 研究活動

学会設立時には、キャリアデザインという言葉はむろん、キャリアという言葉すら、もの珍しかった。今日、学校や事業組織、政府自治体の政策などに、キャリアデザインという言葉は広汎に使われるに至っている。しかし、その意味は多岐にわたっており、学会としての用語を定義するなど、キャリアに関する基礎研究を推進する必要がある。また、厳しい状況下ではあれ遅しく人生を切り開いている人々の営為の発掘と科学的モデル化へのステージに、あらためて実務家と研究者との協働作業で向かうべきである。

(2) 社会的活動

従来キャリアに関する問題は、個人の問題として捉えられていた。しかし、現下の経済の混乱と不確実、雇用の危機と不安定、教育の遅滞と不適応、いずれをとっても、社会構造の問題として捉えることが必要になっている。

キャリアを学際的に研究する研究者や実務家の多い当学会としては、現行のキャリア政策とその結果について研究・検証を行い、キャリア政策に関して積極的な発信を行っていきたいと考える。

(3) 地域活動

キャリアを社会構造の問題として捉えた場合、政策以外にも地域性に着目する必要がある。今後は、関西支部、中京支部に加えて、その他地域での交流会を積極的に開催し、地域を基盤としたキャリア支援者の資質向上に資する活動を推進していく必要がある。

2. 今期および中期的活動計画

(1) 研究（戦略）企画

研究（戦略）委員会を新たに設置し、学会が目指す研究活動・社会活動等の方針を策定する。また、問題意識を深め、共有するために、役員による勉強会を実施する。

(2) 研究組織委員会の活動

各委員長を中心として委員会活動を推進する。

①研究会企画委員会

従来どおり、隔月 1 回の研究会開催を基本として、タイムリーな企画があれば適宜開催する。また、2012 年度大会を東北地方の大学において開催する。

なお、例えば「大学職員のキャリア支援」や「企業におけるキャリア支援」などテーマ別交流会や、違う立場でキャリアに関っている方による勉強会などの開催についても検討し、会員交流の活性化を促進したい。

②研究誌編集委員会

現在年 1 回発行している機関紙について、年 2 回の発行または電子媒体による発行を検討する。なお、機関誌のバックナンバーについても、電子図書館化を模索していきたい。

③広報委員会

毎月 1 回のニュースレターの発行、隔月 1 回程度のメールマガジンの発行について

は従来どおりとしたい。また、ホームページについては、研究会発表者による要旨の掲載、事例や実践報告の募集と掲載を充実したい。また、会員自己紹介のためのコーナーを公募し充実させるなど、会員相互の交流促進にも取り組んでいきたい。

さらに、会員の拡大・組織化を図る活動を推進するための活動も、今期から積極的に着手したい。

④キャリア政策研究・国際交流委員会

文部科学省、厚生労働省、経済産業省等の推進するキャリア政策の検証・評価を行うと共に、国際的なキャリア政策の動向を調査・研究し、学会としてのキャリア政策を提言するための研究活動を、中期的な目標とする。

しかし当面は、当期実施した東日本大震災に関する緊急アンケート結果を基に、キャリア支援者における現状の課題から、キャリアの捉え方、キャリア支援のあり方に関する研究を深め、また、支援される側の変容についても継続的な調査に着手したい。

⑤キャリアデザインハンドブック（仮称）編集委員会

基礎研究を推進するために、用語解説、研究（研究者）史、文献目録、技法、事例などの総合ハンドブックの発行に本格的に着手したい。

(3) 地域活動

支部担当副会長を置き、支部長と連携を図りながら支部主催研究会、交流会を開催する。

① 関西支部

前年度と同様、年1回の関西支部大会、年3回程度の関西支部研究会を開催したい。

② 中京支部

年1回程度の中京支部研究会を開催したい。

③ その他

前年度に続き、各地域での交流会を積極的に開催したい。

(4) その他の活動

前年度に引き続き、会員サービスの向上を目指した諸活動を推進することを目標とするが、会員の積極的な参加を促進し、役員と会員の協働によって諸活動を推進したい。

① 質的向上のための調査・情報収集

キャリアデザイン・プロフェSSIONALの質的向上へ資するための活動として、キャリアデザイン・プロフェSSIONALの実態調査、情報収集、情報提供を学会として推進したい。

② 自主研究の支援・実践事例の収集

会員の研究奨励のため、奨励研究を引き続き公募する。また今まで投稿に依存してきた実践事例を、会員の積極的な参加を促進しながら、組織だって収集し、ホームページ等を活用して紹介することを検討する。

③ 会員業績目録の作成

会員相互の研究活動の支援、情報交換に資するため、学会ホームページを利用した
会員業績目録のデータベースの構築に着手したい。

④ 他学会等との連携

キャリアに関する研究活動を行っている学会、研究機関、メディア等と連携した研
究活動をさらに推進したい。

《資料6》 2011年度予算案の件

日本キャリアデザイン学会2011年度予算(案)				2011年10月1日～2012年9月30日			
科目別	2011年度 予算	2010年度 決算	差額	科目別	2011年度 予算	2010年度 決算	差額
I. 収入の部				II. 支出の部			
会費収入	9,300,000	8,704,300	595,700	大会関連支出	5,000,000	2,685,903	2,314,097
大会会費収入	4,500,000	2,466,000	2,034,000	関西支部支出	500,000	285,988	214,012
研究会参加費収入	250,000	198,000	52,000	中京支部支出	500,000	226,187	273,813
研究誌等販売収入	150,000	128,000	22,000	地域活動費支出	400,000	0	400,000
関西支部収入	150,000	153,000	-3,000	業務委託費	2,500,000	2,340,000	160,000
中京支部収入	100,000	151,000	-51,000	広告宣伝費	700,000	690,900	9,100
その他事業収入	80,000	76,000	4,000	旅費交通費	200,000	468,890	-268,890
受取利息	1,000	400	600	通信費・運賃	750,000	740,972	9,028
当期収入計(A)	14,531,000	11,876,700	2,654,300	諸謝金	300,000	252,220	47,780
前期繰越資金	5,159,037	3,924,973	1,234,064	会合費	250,000	309,437	-59,437
収入合計(B)	19,690,037	15,801,673	3,888,364	消耗品費	200,000	179,550	20,450
※大会関連収支は、2年分を計上しております。 2011年度大会(日本大学)、2012年度大会 ※中京支部設立に伴い予算計上しております。 ※2010年度の地域活動費は、各科目の中で支出しております。				印刷費	2,200,000	1,748,250	451,750
				支払手数料	300,000	281,662	18,338
				諸会費	200,000	195,000	5,000
				研究助成費	300,000	0	300,000
				予備費・雑費	231,000	237,677	-6,677
				当期支出計(C)	14,531,000	10,642,636	3,888,364
				当期収支差額(A)-(C)	0	1,234,064	-1,234,064
				次期繰越資金(B)-(C)	5,159,037	5,159,037	0

－お問い合わせ－

日本キャリアデザイン学会

〒102-8160
東京都千代田区富士見 2-17-1
株式会社エイチ・ユー教育事業部内

TEL 03(3264)6129 FAX 03(3264)9568

E-mail: info@career-design.org

URL: <http://www.career-design.org>